

# 三心を磨く

学校だより NO. 28

平成29年11月21日(火)発行

須坂市立東中学校

文責：金井勝久(教頭)

<http://www.azuma-school.ed.jp/>

平成29年11月22日 校長講話(人権)

## 相手を思いやる心

11月も下旬になり、いよいよ本格的な冬の到来が間近になってきました。朝の寒さも厳しくなってきましたが、寒さに負けて遅刻することのないように頑張りましょう。

現在学校では、後期人権教育月間として、部落差別問題を中心に、差別を見抜き、差別を許さず、差別に立ち向かう力を身につける学習を進めています。そこで今日は、今みなさんが学習している人権教育月間にちなみ、みなさんと同じ長野県の中学生在が書いた作文で、とても考えさせられた作文があったのでそれを聞いてもらいたいと思います。本日の校長講話のテーマは「相手を思いやる心」です。

### 「僕んちのお父さん」

「いつまで起きてんだ。さっさと寝ろ」

夜の9時過ぎ、テレビなんかイイ感じなのもお構いなしにお父さんが怒鳴る。つい数分前に「勉強しろ」って怒鳴ってたに。

お父さんは、僕が見る限りはほとんどマイナス面でできている。休日は、朝から酒を浴びるように飲み、それに比例して自己中になっていく。ウエストは百センチ。メタボの鑑である。ほかのパーツは標準的なのがかえて災いし、ウエストをより引き立てている。唯一のプラス面は、料理が上手ということぐらいだが、面倒臭がりな性格がこれまた災いし、滅多なことでは作りもしない。それに、メタボの鑑が作る料理である。カロリー計算などしたくもない。

つまり、「理想のお父さん」からは、似ても似つかないのが僕の「お父さん」なのだ。

そんなお父さんが、身体障がい者だと知ったのは、小らのときだった。「障がい者って見たことある？」とお母さんに聞いたのがきっかけだ。だましてるんだと思って信じていなかったが、若かりし頃のお父さんの写真が貼られている「障がい者手帳」なるものを見せられては、認めざるを得なかった。そこに難しい漢字で書かれた障がい名から察するに、足の障がいらしかった。「らしかった」というのは、お父さんの歩行が、普通の人となんら変わりのないように見えるからである。

ある時、面倒臭がりなお父さんにしては珍しく、ドライブに連れて行ってくれたことがあった。適当な飲食店で昼食を済ませ、駐車場へ向かっていたとき、階段を、杖を使って非常におぼつかない足どりで歩いている人がいた。一目で障がい者だとわかった。

「ねえ、あの人大丈夫かなあ」とつぶやいたら、お父さんは、

「ほっとけ」とだけ言って、さっさと車に乗ってしまった。その声は、冷たく、吐き捨てるような感じだった。車中、僕はお父さんの冷たい言いぐさに無性に腹が立った。ほっとけて何だよ。見捨てろって言うのかよ、と思った。僕はこらえきれずに、お父さんに食ってかかった。

「お父さん、さっきの人見て、ほっとけて言ったよね。それ、ちょっとひどいんじゃないの？ 頑張ってる人を見捨てろっていうの？」

お父さんは静かに、

「そうだ」と言った。僕は頭にきた。お父さんはホントに最低な奴だと思った。

「それってどういうこと？お父さんには、親切って心がないの？困っている人見たら助けてあげようって思わないの？」お父さんは言い返してきた。

「お前は、困っている人から困っていること取り上げて、解決させることが親切だと思ってんのか。それは大きな間違いだ。現にお父さんだって、事故ってからいろんな人にほっとかれたから、今、こんなに歩けるようになったんだ。だから、俺もあの人に精一杯の親切をしてやったつもりだ。お前みたいな考えが、ああいう人にとって、一番の不親切だ。ありがた迷惑ってやつだ。」

僕は何も言い返せなかった。ただ、お父さんは、最低な奴だと思った自分が恥ずかしくなるだけだった。

考えてみれば、お父さんとあの方は、多分同じ足の障がいだ。お父さんには、障がい者として接したことはただの一度もない。なのに、なぜ見ず知らずのあの人には、そうやって特別目線で接してしまうのだろうか。

無愛想なお父さんの「ほっとく」は、「見守る」の裏返しだと思う。もし、僕があの時、中途半端に手助けして、親切した気になっていたら、あの人が一歩で歩けるように苦労して育てた芽を摘みとってしまったかもしれない。それは、お父さんの言う通り、あの人にとっての最大の不親切に違いない。

カーステレオだけが響く車内。黙って片手でハンドルを握るお父さんの姿は、なんだかかっこよく思えた。

「おい、何時だと思ってんだ。さっさと寝ろ」

例によって夜の9時過ぎ、かっこ悪いいつものお父さんが怒鳴る。どうして、僕のことは「ほっといて」もらえないのだろうか。

こうゆう作文です。

私が、今日、この作文をみなさんに紹介したのは、理由があります。今みなさんは、教室で、グループや小集団で、意見交換したり聴き合ったり、教え合ったりして学習する機会が多いと思います。そのとき、みなさんはどのようにしていますか。「分からないから教えて」と言ってきた友達に対しては、解き方やそのようになる理由を、親切に、丁寧に、相手に分かるように教えてくれていると思います。その時に、みなさんをお願いします。その人が、できるところまで、分かっていることまで、教えてしまわないようにしてほしいのです。そんなことを言ったって、相手がどこまで分かっているか分からないじゃないか、と言うと思います。

そこで、お願いします。単に「教えて」と聞かれたら、どこまで考えたのか、どこまではできたのかを、まず、「聴いて」ください。そして、その人の考えを理解した上で、教えて欲しいのです。

たとえ、その人の考えが間違っているとしても、どのように考えたのかを最後まで聴き、ここを間違えているというところを聞き出してから、教えて欲しいのです。これは大変に難しいことかもしれませんが、しかし、教える方も、これができるということは、自分自身でも、かなり理解が進んでいるということです。最初は、「聴く」だけでも結構です。相手の考えを丁寧に聴いてください。

「学び合い」の学習は、「聴く」ことからスタートし、それが、自分も相手も大切にすることです。自分を大切に、自分と同じように他の人も大切に、そんなクラス、学年、学校であるために、自分はどうすればいいのか。この作文をもとに、クラスに帰って考えてみてください。

